

本社移転に伴い余剰となった備蓄品を有効活用

備蓄防災食品の一部を「フードバンク」に寄付しました

2021 年 10 月 25 日（月）から京急グループ本社（所在地：横浜市西区）に本社機能を移転することに伴い、余剰となった現本社の備蓄防災食品の一部をフードバンク、「セカンドハーベスト・ジャパン」に寄付いたしました。

これは、社会課題解決に向けた京急グループの ESG 経営の一環として、京急建設がおこなった活動のひとつで、SDGs の「(1 番)貧困をなくそう」、「(2 番)飢餓をゼロに」、「(12 番)つくる責任つかう責任」の目標達成に向けて、余剰となった備蓄防災食品白米約 756 食、味噌汁約 540 食をフードバンクへ寄贈し、食品ロス問題や廃棄物削減に貢献するものです。

京急建設では引き続き、持続可能な社会の実現を目指し、さらなる社会課題解決に取り組んでまいります。

寄付防災食品について

白飯（お米）：756 食（36 食/箱×21 箱）、味噌汁：540 食（60 個/箱×9 箱）

寄付先について

○名 称 セカンドハーベスト・ジャパン

○C E O マクジルトン・チャールズ・アール

○概 要 日本初のフードバンクを運営し、食品製造メーカーや生産者、企業、個人から余剰食品を引き取り、児童養護施設やDV被害シェルター、フードパントリー団体等へ安全に分配する取り組みを進めている団体



寄付した備蓄防災食品